

核燃料物質等の輸送(貯蔵兼用)キャスクの 経年変化に対する今後の取組み

2022年4月14日

電気事業連合会

今後の取組み

- 核燃料物質等の輸送・貯蔵・輸送貯蔵兼用キャスクについて、過去行った、使用済燃料輸送キャスクの分解試験結果およびこれまでの使用実績を踏まえ、**キャスクが通常使用される条件においては、緩衝材の熱的劣化による技術基準適合性への影響はない**と考える。
- 一方、緩衝材の経年変化に係る議論は、国際的にも、今後行われるところと承知しており、事業者としては、安全性向上の観点から、国際的な議論の状況を注視する等、**自主的に、緩衝材の経年変化に係る知見の拡充**に取り組み、**新たな知見が得られた場合は、設計への影響を確認**する必要があると考える。
- また、今後、キャスクを廃止する機会を含め、**データ取得のための試験の実施**について検討を進めるとともに、国際的な知見の拡充および情報共有に資するため、国内外の学会で発表を行う等、**積極的な情報公開**に努めてまいりたい。
- 上記の取組みは、電力のみならず、電力中央研究所、メーカー、JAEA等、**業界関係者が広く関与できる会議体を活用し、推進してまいりたい。**

【参考】 業界内の取り組み

業界関係者が広く関与する会議体を活用し、取り組みを推進する。

○**体制:キャスクの設計・使用に係る業界関係者**

電気事業連合会、電力各社（日本原電、電源開発含む）、
JAEA、日本原燃、原燃輸送(株)、キャスクメーカ、成型加工メーカ、
電力中央研究所、学識経験者 等

○**取組内容:知見拡充および情報公開**

- ・IAEA規則議論状況のフォロー等、キャスク長期健全性に係る[国内外の情報収集](#)
- ・[緩衝材データ取得試験](#)の検討・実施
- ・キャスク長期健全性に係る検討状況および試験結果の[情報公開（国内外学会発表等）](#)